

わが社のWLBな人

シンボルキャラクター「WLB7」のテーマに沿ってワーク・ライフ・バランス(WLB)に取り組む方々をFacebook、Instagramで紹介しています。

2025年10月～12月に取り上げた人をご紹介します。



Instagram



Facebook



WLB7

- はぐペン (ペンギン)・・・子育てと両立しながら職務に励む
- ケアモン (さる)・・・親の介護を行いながら職務に励む
- テレくま (くま)・・・テレワークを利用して在宅勤務
- キーライオン (ライオン)・・・社内におけるWLBのキーパーソン
- アクティブー (みつばち)・・・女性社員のリーダーで初の女性役員候補
- ヤルぞう (ぞう)・・・再雇用制度を利用するベテラン
- フレグ (カエル)・・・フレックスタイムを利用

【2016年度認定企業】

株式会社レック(神戸市) 大野さん〔表紙写真:左〕



テレくま (テレワーク)

憧れのブライダル業界で充実した日々を送っていた3年前、父親の病気が判明した大野さん。退職して高知に帰郷するしかないかと覚悟していたところ、在宅勤務での継続を打診され、人事部に異動。不慣れな業務にも、上司のきめ細かなサポートと、「多様な社員が活躍できる会社のキャリアパスを人事部がつくりたいから頑張ろう」との励ましで、今では「以前はお客さまのために働

いていましたが、今は社員のために働くことにやりがいを感じています」と笑顔で話します。上司の人事部長は長野、他の人事部メンバーは福岡、三重、埼玉と全国に散らばりながらも、在宅勤務で業務を進めています。現場を重視する業界でありながら在宅勤務を併用している大野さんたちの姿は、ヒントになるのではないのでしょうか。 (2025年10月)

【2023年度宣言企業】

株式会社アダチ(神戸市) 魚本さん〔表紙写真:中〕



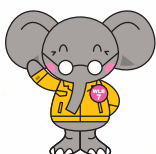
キーライオン (キーパーソン)

センターで開催した、組織内でのWLB推進役を養成する「キーパーソン養成講座」に参加した魚本さん。講座の第4回は、各受講者が今後の取り組みについてプレゼンし、参加者同士で「共感した」プレゼンに投票します。得票数が最も多かった魚本さんが、同講座修了者代表として12月1日の「ワーク・ライフ・バランスフェスタ2025」で修了証書を受け取りました。受講後の感

想として「一緒に参加している方々の意見も聴きながら作成することができた」「他社との関わり、チームの協力があつたのでラストまで走りきれた」「今まで気付いていなかったことに気付き、会社や社員のためにも生かせそう」との言葉がありました。これからも社内の推進役としての活躍を期待しています！ (2025年12月)

【2024年度認定企業】

パナレーサー株式会社(丹波市) T.H.さん〔表紙写真:右〕



ヤルぞう (再雇用)

生まれも育ちも丹波で、地元の自転車タイヤの製造会社に入社して丸42年を迎えようとする今年1月に役職定年を迎えたT.H.さん。その後も引き続き再雇用され、定年前と同じ部門で働いています。業務自体は変わらないものの、役職が無くなったことで肩にかかる責任が軽くなり、気持ちとしてはかなり楽になったそうです。反

面、老後の生活を思うと、不安もないわけではないというのが正直なところ。年金がいくらもらえるのかも気になり、「YouTubeでそんな情報ばかり集めてますよ」と笑いますが、気が向いた時にバイクのツーリングを楽しむのは今も変わりません。変わることがあり、変わらないこともある中、人生はまだまだ続きます。(2025年11月)

センターの主な事業

- ワンストップ相談 ● コーディネーター、コンサルタントの派遣 ● 外部専門家による研修・実践支援
- テレワークサポートセンター ● 自己診断システム ● 中小企業従業員意識調査 ● 企業助成

公益財団法人 兵庫県勤労福祉協会 ひょうご仕事と生活センター

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-3-28 兵庫県中央労働センター1階

TEL 078-381-5277 FAX 078-381-5288 E-mail info@hyogo-wlb.jp

開館 月～金曜 9:00～17:00 (祝休日、年末・年始を除く)

阪神事務所

〒660-0881 尼崎市昭和通2-6-68

尼崎市中小企業センタービル6階

TEL 06-6481-1888

姫路事務所

〒670-0947 姫路市北条1-98

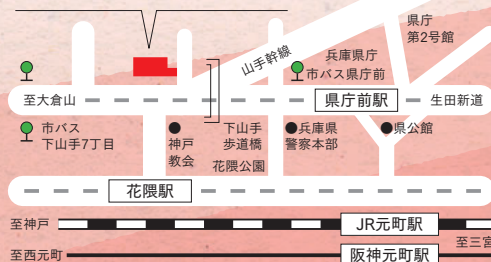
兵庫県立姫路労働会館1階

TEL 079-288-2603

携帯、
タブレットから
アクセスできます



兵庫県中央労働センター1階 ひょうご仕事と生活センター



- 神戸市営地下鉄「県庁前」駅西出口③から西へ徒歩7分
- 神戸高速鉄道「花隈」駅東口から北へ徒歩9分
- JR「元町」駅西口から北西へ徒歩12分
- 阪神電鉄「元町」駅西口から北西へ徒歩14分

<https://www.hyogo-wlb.jp/>

ひょうご仕事と生活センター

検索

仕事と生活の バランス

2026
SPRING
vol. 72

働き方 見直す勇気が
未来を変える

（2025ワーク・ライフ・バランスキャッチフレーズ
兵庫県雇用対策三者会議賞・学生の部）

わが社のWLBな人

詳しくは裏表紙へ



特集 |

2025年度ワーク・ライフ・バランスの 取組に関するアンケート調査結果

4 | 介護現場の働きやすい職場づくり

5・6 | 事業報告

7 | センターからのお知らせ / 県政トピックス

8 | わが社のWLBな人

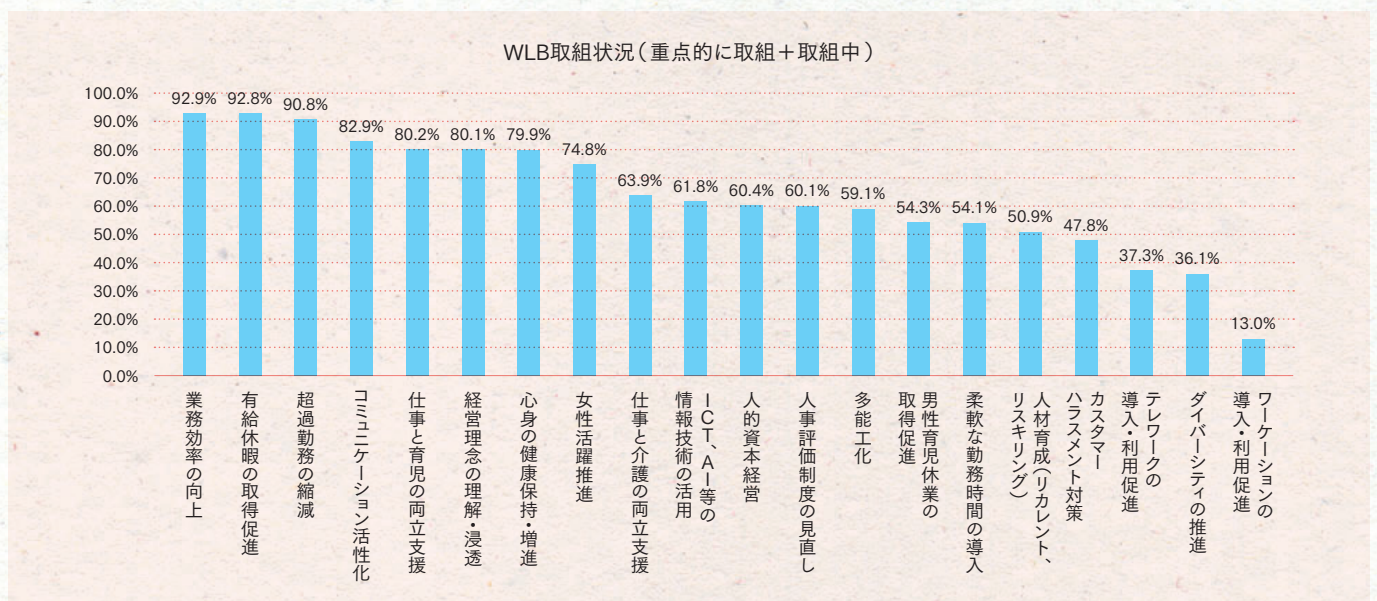
2025年度ワーク・ライフ・バランスの取組に関するアンケート調査結果

ワーク・ライフ・バランス（以下、WLB）や不妊治療と仕事の両立支援の現在の取組状況、課題などの実態を把握するため、WLB宣言・認定・表彰企業3,874社を対象にアンケート調査を実施しました（調査期間：2025年6月25日～8月7日）。有効回答数1,115件の調査結果から、主な概要をお伝えします。

WLBについて

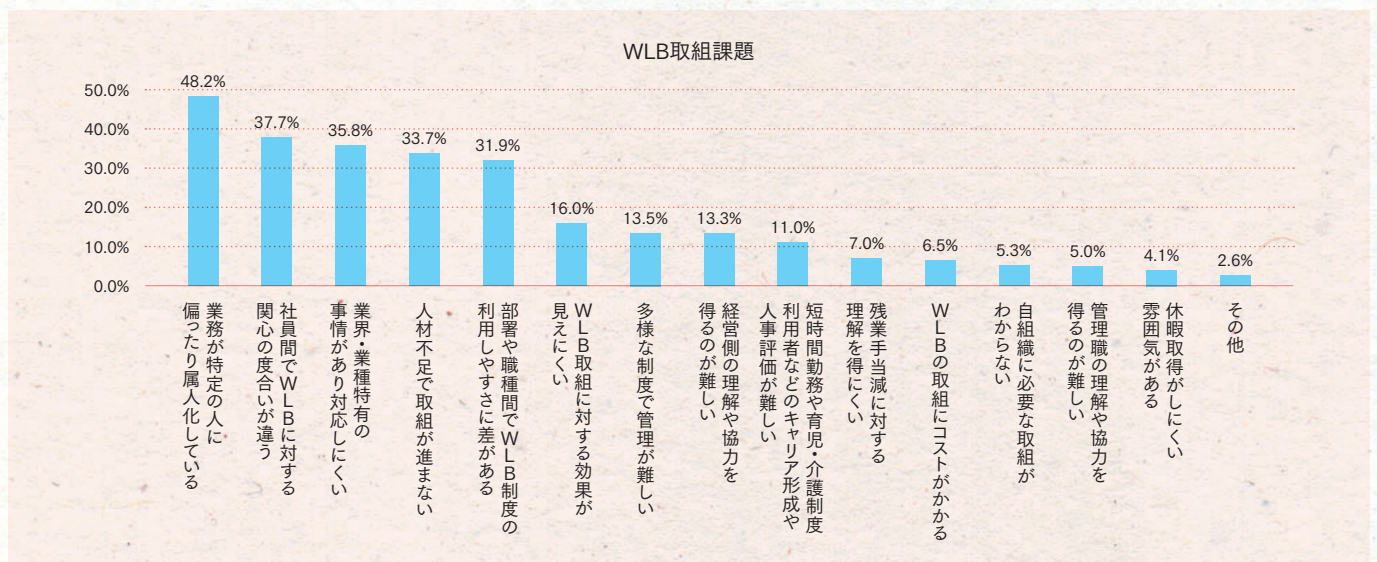
WLB取組状況

「業務効率の向上」「有給休暇の取得促進」「超過勤務の縮減」については、9割以上の企業が取り組んでいます。一方、「テレワーク導入・利用促進」「ダイバーシティの推進」については取り組んでいる企業が4割を下回る状況です。



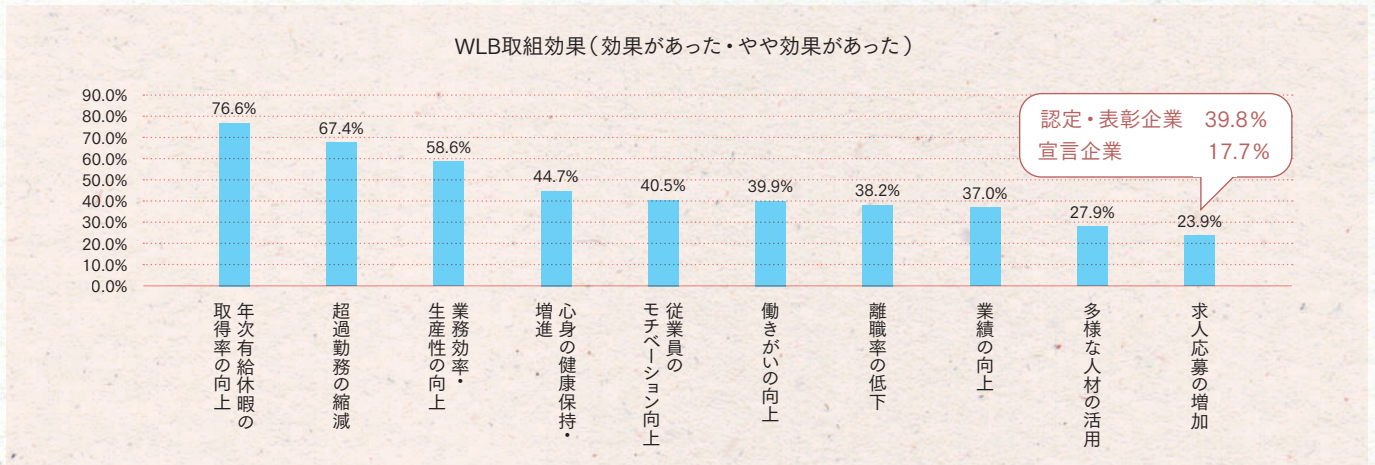
WLB取組課題

「業務が特定の人に偏ったり属人化している」は約5割の企業が課題と感じています。また、「社員間でWLBに対する関心の度合いが違う」「業界・業種特有の事情があり対応しにくい」「人材不足で取り組みが進まない」「部署や職種間でWLB制度の利用しやすさに差がある」は3割を超える企業が課題と感じており、この傾向は前回調査（2023年）と同様です。



WLB取組効果

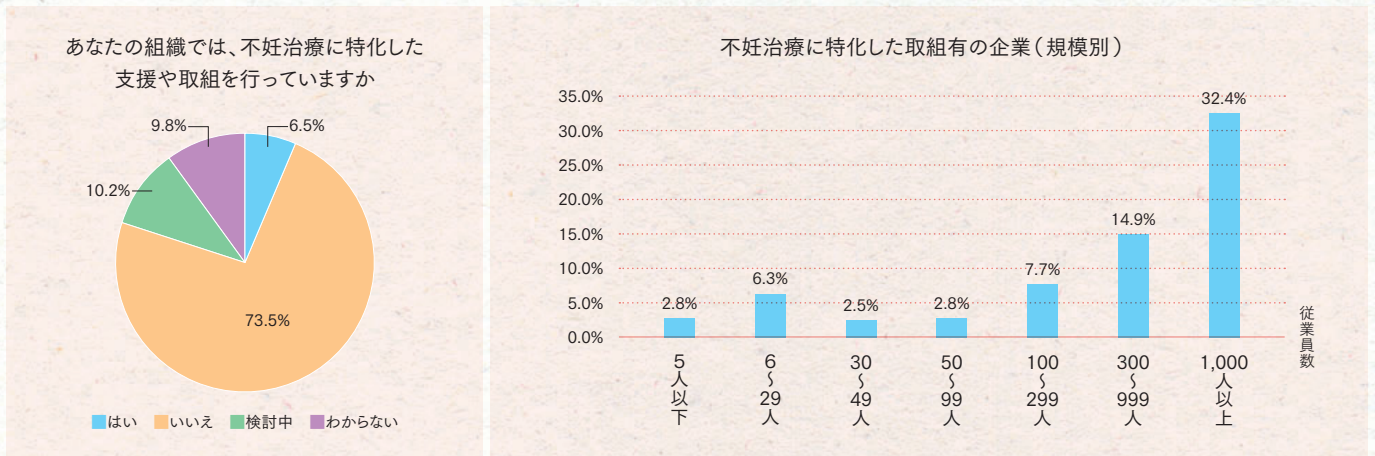
「効果があった」「やや効果があった」と回答した企業割合では、「年次有給休暇の取得率の向上」が最も多く（76%）、次いで「超過勤務の縮減」（67%）、「業務効率・生産性の向上」（58%）の順で効果を実感しています。また、効果の実感が少ないのは「求人応募の増加」（23%）ですが、WLBの取組が進んでいる認定・表彰企業では宣言企業に比べて効果を実感している割合が高くなっています。



不妊治療と仕事の両立支援について

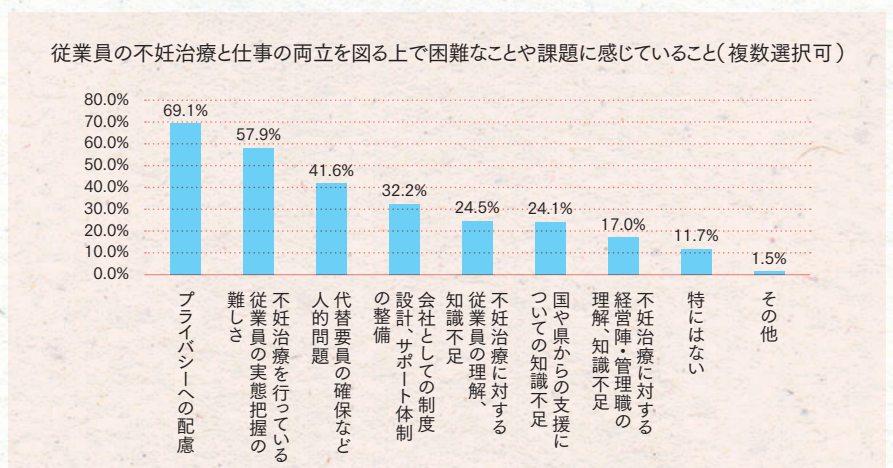
取組状況

不妊治療に特化した支援や取組を行っているか尋ねたところ、約7割が特化した取組を行っていないと回答しています。なお、企業規模が大きくなるにつれ取り組む企業も増え、従業員1,000人以上規模では約3割が何らかの取組を行っています。



取組課題

従業員の不妊治療と仕事の両立を図る上で困難なことや課題に感じていることを複数回答で尋ねたところ、7割弱の企業が「プライバシーへの配慮」を課題と感じています。



数々の先端技術を導入し 職員が楽しい介護の実現を

「利用者ファーストのための職員ファースト」を掲げ、介護現場にいち早くICT（情報通信技術）を導入してきた社会福祉法人弘陵福祉会。運営する特別養護老人ホーム六甲の館でのICTを活用した業務効率化や生産性向上の取組が評価され、2024年度には「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰」を受賞しました。その取組の一部を紹介します。

■ ICTインフラの整備で業務効率化

「2013年にWi-Fiを全館に導入し、見守りセンサーや癒やし系ロボットなど電子機器類の活用範囲を徐々に広げていきました」と、理事長の溝田弘美さん。介護現場のICT化は、職員の業務効率化に大きく貢献しているといいます。

例えば、利用者の介護記録。手書きの分厚いファイルを見て驚いた溝田さんが2011年にパソコンに介護記録ソフトを導入して以来、紙の削減が進み、今では介護記録などのデータは全てクラウド上で管理しています。3年前に切り替えた介護記録ソフトは、タブレット端末や1人1台配布しているスマートフォンのほか、インカムを通じて音声での入力も可能。記録する手間や時間が大幅に削減されました。

他のICT機器ともアプリで連携しており、各ベッドマット下に敷いた見守りセンサーが測定する利用者の心拍数と呼吸、睡眠の質に関するデータも自動で記録します。「異常があればモニターを通じて知らせてくれるので、夜間に職員がフロアを見回る必要がなく、外国人や介護経験の浅い職員も早い段階から夜勤が可能です」。職員の安心感につながっているほか、各自が手軽に情報を確認できるため、かつて30分以上かかっていた申し送りの時間は10分程度に短縮されるなど、多くのメリットをもたらしています。



パソコン画面で利用者の状況を確認できるため、夜間の見守り業務は1フロアを1人で担当。職員間の伝達をスムーズにするインカムからも介護記録が入力でき、無駄な動きの削減に。



リフトを使えば女性職員も1人で簡単に利用者をベッドから車椅子へ移せます。

■ 最新技術で生産性も介護の質もアップ

2003年からは、リフトを活用して「人力で抱えない介護」を実践中。リフトは12年に床走行型から天井昇降型に変更し、現在は全ての居室と浴室、トイレに導入しています。

「全身まひの人をベッドから車椅子に移す場合、3人がかりで抱えなければいけません。力を入れるから、移される側も痛い。でも、リフトだと職員が1人で、利用者さんと視線を合わせて会話しながら安全に移せます。職員の腰痛対策にもなりますし、『ブランコみたいで快適』と利用者さんからも好評です」と、溝田さんは効果を挙げます。高齢者は皮膚が弱いため、人力移乗の頃は足がどこかに軽く当たるだけであざができるなど年間70件近く発生していた事故がゼロとなり、事故報告書作成のための時間もなくなりました。

入浴介助においても、湯に浸かるだけで泡が全身の汚れを除去するウルトラファインバブル発生装置をリフトと併用することで、必要な人員を8人から4～5人に削減。また、日中は極力起きて過ごしてもらおうと多種多様な車椅子を用意しており、そのメンテナンスのために自動洗浄機を購入するなど職員の省力化が徹底されています。

■ 多様な人材が活躍できる職場に

5カ国10人の外国人スタッフが在籍している同施設。日本語学校の授業料や居住費を支援しているほか、eラーニング形式での法定研修でも英語の字幕が出るようにしてより深い理解を促すなど、成長をサポートしています。

ICT機器をうまく活用しながら働きやすい職場環境の整備を進め、それによって生まれた職員の余裕を利用者とのコミュニケーションやレクリエーションといった人にしか生み出せない温かいケアにつなげている同施設。国内外から多くの視察を受け入れるなど、注目を集めています。



認知症の人も楽しめるよう開発された、プロジェクションマッピングを使ったゲームを導入。集中力が増し、中には症状が改善された人も。

ワーク・ライフ・バランス地域セミナー・シンポジウムを開催しました

阪神地域シンポジウム

2025年11月5日に「人材確保と地元企業の戦略的な取組」と題したシンポジウムを尼崎商工会議所で開催しました。まず、武庫川女子大学経営学部の山下紗久佳准教授がWLB宣言・認定・表彰制度のメリットを紹介。続いて地元企業3社が事例を発表した後、トークセッションが行われ、最後に山下准教授による総括がありました。



【要旨】

「若者が集まらない」「採用してもすぐに辞めてしまう」といった声をよく聞きます。実際のところ、学生が地元企業を知らず業界への固定観念があることが、地元企業への応募を阻む原因になっています。企業は採用活動を人材の募集と定着という両面から進めるべきです。

【事例発表】

不二電気工事株式会社は、建設業でありながら年間休日125日、1人当たりの残業時間月14時間、男女比5:5を実現。社員用ジムやデザイン性の高いオフィス整備、不妊治療・介護の外部相談窓口設置などにより新

卒定期採用が実現しました。

松谷化学工業株式会社は、お互いを尊重し信頼するという「社員は家族」の理念を継承しつつ、WLB認定取得を機に社内制度を整備。目の前の採用目的ではなく社内の充実を図ることが中長期的な採用活動につながるるとともに会社・社員の成長になると、老舗企業らしい取組を進めました。

大日化工株式会社は、社員一人一人のキャリア形成と仕事を結び付けるためセルフ・キャリアドック[※]制度を導入し、社員が自らの可能性を最大限に発揮できる職場を目指しています。認定取得を社内外に発信することで社員が誇りを持ち採用活動にも効果が出ています。

※セルフ・キャリアドック：人材育成ビジョン・方針に基づき、企業が従業員の主体的なキャリア形成を促進・支援する総合的な取組

【総括】

WLBは休暇を取り残業を減らすだけでなく、仕事と生活の相互充実により、社員や会社が最大限に力を発揮できるようにする仕組みです。WLB宣言・認定・表彰制度を①組織課題の見える化②社内発信・意識醸成③採用・ブランディングに活用すること、つまり戦略的に活用することが大切です。

神戸地域セミナー

2025年10月29日、「上司力[®]」提唱の第一人者である株式会社FeelWorks 代表取締役の前川孝雄氏を講師に迎え、「若手を育て活かす上司力[®]～若手が成長実感できる職場の創り方～」をテーマにした講演会を兵庫県私学会館で開催しました。



【要旨】

私が営むFeelWorksは2008年の創業以来、500社以上の企業で管理職研修を行い、現場で部下に関わる「上司力[®]」の重要性を伝えてきました。若い世代の価値観が変化する中で、育成やマネジメントが以前より格段に難しくなっています。

昨今は、プレイングマネージャーが9割に達し、ハラスメント防止や働き方改革、キャリア支援など新たな役割が加わる中、7割の管理職が「マネジメント負担が大きい」と感じています。さらに、若手の転職ハードルが下がり、定着が難しいという声はどの企業にも共通しています。背景には、奨学金返済などの教育費の負担増、将来への不安、SNSによる価値観の偏りなど、若者を取

り巻く環境の大きな変化があります。コミュニケーションもネットでの文字中心になり、上司が「相談に来ない」と感じる一方で、若手は「誤解を避けるためにメールやチャットの文字で伝えたい」と考えるなど、すれ違いも生まれやすくなっています。

また、働き方改革によって「働きやすさ」は向上したものの、「働きがい」を感じられず離職するケースも増えています。若手は決して主体性が低いわけではなく、むしろ成長意欲や貢献意欲は高くなっています。しかしタイプ思考の高まりから、職場とのギャップに直面すると早々に諦めてしまうことが多いようです。

だからこそ、上司に求められるのは、傾聴によって若手の不安を受け止める姿勢です。“リアリティショック”を和らげ、仕事の目的や意味を丁寧に伝え、若手が自分の成長を実感できる小さな成功体験を積み重ねることが重要です。上司は「管理職」ではなく、「支援職」へと役割を転換し、部下の持ち味を引き出す存在でなければなりません。

人を育てることはとても喜びに満ちた仕事だと思えます。上司自身がワクワクしながらマネジメントに向き合うことが、若手育成につながると考えています。

姫路地域シンポジウム

2025年10月16日、株式会社ダイフク社外取締役や東洋紡株式会社社外取締役を務める神崎夕紀氏を講師に迎え、「多様性推進の現状と自律的キャリア形成」をテーマにした講演会を姫路商工会議所とオンライン参加のハイブリッド形式で開催しました。



【要旨】

私は、体外診断用医薬品メーカーの研究職として社会に出ました。その後、ビール会社に転職、製造現場を経て工場長、グループ会社の経営に携わりました。経営の現場で強く感じたのは、会社の成長と個人の成長は両輪であり、成長の場は与えられるものではなく、自らつくるものだということです。

私は、雇用機会均等法世代であり、当時民間企業で長く働き続ける女性は多くありませんでした。現在では、その数も増加しましたが、本当に問われるのは「働き続けられる環境」があるかどうかです。以前の会社では2006年から女性活躍に着手、管理職の女性比率を数%から15%まで高めました。数値だけでなく意識を

変えることが重要であり、時間がかかる取組でした。

多様性の推進は、女性だけの問題ではなく、個人や社会の価値観が多様化する中、企業が経営として取り組むべき課題です。BtoB企業では、会社全体で男性比率が高い業種も多くあります。取り組みの初期段階では、数値目標も設定し、女性や若手が挑戦できる仕組みを整える必要があります。経営には、現実を理解し、少数派が孤立しないよう公平に機会を提供・支援する姿勢が求められます。

私は、さまざまな機会を得ながらキャリアを築くことができました。それは自分の力だけではなく、一緒に働く仲間のおかげでもあります。従って、仲間づくりは私の経営における行動の基本です。目の前の仕事をやり切る、そして、その結果により信頼される自分になり、志を同じくする仲間を得る。それらが自分のキャリアを形成する源であるとも思っています。成長の機会はいつ訪れるかわかりません。本当にやりたいと思っていた機会が突然来た時に、しっかり受け止められる実力を養っておくことが重要です。日々エネルギーを蓄え、必要な際に力を思う存分に発揮できる状態にしておくことが、自律的キャリア形成の基本といえます。

事業報告
Business
Report

「WLBな会社ガイド」2025年度ウェブ版を発行！

2025年度表彰企業6社・団体の取組を紹介。就活中の学生はもちろん、企業の人事担当者やワーク・ライフ・バランス(WLB)推進担当者にもおすすめです！



ひょうご仕事と生活のバランス 表彰企業の取組紹介

2025年度の表彰企業がWLBに取り組み始めたきっかけ、実現までの経緯や取組のポイントを紹介。



わたしの就活体験記

表彰企業の若手社員が自らの就職活動を振り返って就活生にアドバイス。



Contents | ワーク・ライフ・バランス(WLB)とは/WLBな会社とは/わたしの就活体験記/2025年度ひょうご仕事と生活のバランス表彰企業の紹介/これまでの表彰企業一覧(50音順・地域別に掲載)
◎取組の紹介はセンターのホームページからご覧いただけます。



「ワーク・ライフ・バランス表彰企業が集結!ひょうご企業研究フェア」を開催しました

1月17日、大学生や既卒者等を対象に、「ワーク・ライフ・バランス表彰企業が集結!ひょうご企業研究フェア」を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、40社の企業と100人の学生等が参加しました。

フェアの前半では企業名を伏せたまま、MBTIや、やりがい、社風、働き方といった観点で、参加者が相性の良い企業を選択し訪問。後半は企業名をオープンにした上で気になったブースを訪問し、企業担当者が自社の魅力について説明しました。

学生からは「ノーマークだったが興味深い所が見つかった」「MBTIで自分の特性に合いそうな企業を探せ、新しい業界を見られた」といった感想がありました。

ワーク・ライフ・バランス表彰企業の魅力を多くの学生等に発信できる貴重な機会となりました。



「令和7年度企業魅力発信フェア」開催の様子



企業魅力発信フェア

大学生・既卒者等を対象に、ワーク・ライフ・バランス(以下、WLB)等の県認定制度を取得している企業の魅力発信を目的としたフェアを、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しています。

近年、大学生や既卒者等が就職先を選ぶ際にWLBを重視する傾向が高まっていることを踏まえ、2026年度も引き続き、WLB認定企業やミモザ企業、SDGs認定企業などの参加を促し、県内企業の魅力発信と人材確保支援に取り組みます。

テーマ型インターンシップ(大学生等インターンシップ推進事業)

大学生等を対象に、テーマごとに複数の企業を訪問し、短期間で多くの県内企業を知ることができるプログラムを提供しています。2026年度は、WLBへの先進的な取組を行う企業を巡り、県内企業の魅力や将来の働き方への理解を深めるコースを新設します。

【テーマ例】地場産業、業界型(製造業等)、WLB表彰企業研究型 等

【コース例】

1日目		2日目		3日目	
座学	A社訪問	B社訪問		C社訪問	振り返り

問い合わせ先：兵庫県産業労働部労政福祉課雇用就労班 TEL078-362-3357